

学位論文内容の要旨

学位申請者	小林 加代子 【比較社会文化学専攻 平成23年度生】	要 旨
論文題目	元禄赤穂事件における「義」の観念について	<p>本論文の主旨は、元禄赤穂事件ならびに「忠臣蔵」を題材として、そこに見出される「義」の観念とはいかなるものかについて考えることを目的とする。その特徴は、「義」の観念を包括的に考察し、ここに付随する問題点を確認しながら、「義」の意味がそのときどきの「義士」像の変遷に関連することを丁寧に解明したところにある。</p>
審査委員	(主査) 教授 高島 元洋	<p>第一章では、「義」がこれまでどのような意味で使用されてきたかについて、近世武士道書を取り上げて検討した。第二章において、元禄赤穂事件の発生から「赤穂義士」の成立までを検討し、「義」をどのように認識していたか考える。第三章は、赤穂義士論争を通観し、「義」の観点から整理しなおすことを目標とする。第四章では『碁盤太平記』『仮名手本忠臣蔵』などをとり上げる。第五章においては、近代において元禄赤穂事件、「忠臣蔵」がどのように評価されるようになったかについて真山青果『元禄忠臣蔵』論じる。</p> <p>以上のような、元禄 赤穂事件の発生から「赤穂義士」像の定着までの経緯において、「義」という観念はどのようなものとして認識されてきたのか。その思想的背景を明らかにすることを目的として、本論文は、元禄赤穂事件にまつわるあらゆる事象における「義」のあり方を抽出し、その変遷を追う。</p>
	准教授 三浦 謙	
	教授 神田由築	
	教授 内藤 俊史	
	東京大学人文社会系研究科	
	教授 頼住 光子	